

先週に引き続き多様性センターガイドツアーに行ってきました。

<https://docs.google.com/presentation/d/1BVpGNxtAliGbjWWWX45RvW9PBKGOo2Gtwz3GxieRLWg/edit?usp=sharing>

<1>

「雑木林のマヤランは、キノコと仲良し」

植物多様性センター2018年
6月23日(土) ガイドツアー参加勉強ノート
三崎吉剛

<2>

マヤランはキノコと仲良し

マヤランは、根も葉もないそうです。

国立科学博物館植物研究部 / 筑波実験植物園

遊川和久博士「[共生菌からみたマヤランの不思議な暮らし](#)」



<3>

マヤランのそばにいる シロタマゴテングタケ

このキノコは致死性の猛毒をもっているとのこと
です。マヤランは地中の菌糸から栄養をもらっている
そうです。



<4>

キノコが生育できるには、クヌギや笹の刈り取りが必要

宮沢賢治の「どんぐりと山猫」（青空文庫）朗読には、キノコの楽隊がでできます。写真ではわかりにくですが、ここにはたくさんのどんぐりがおちています。



<5>

マヤランとエビネの種子

ガイドの方が、マヤランの種子のはいったケースを見せてくれた。中は胡椒の粉末のようだった。

今度は、特別にガイドの方がエビネの種子を摘み取り見せてくれた。子房のようなものを割ると中は、やはり粉末であった。

もし一つ一つが種子であれば花はどのようなになっているのだろうか、という疑問が起きた。



エビネ

<6>

マヤランは絶滅危惧種

マヤランは、無菌培地での栽培で国立科学博物館筑波植物園が成功しているそうです。

「光合成をやめた植物」として進化の解明ができるかもしれないとのこと。